

陳情第10号	受理年月日	平成29年2月17日
付託委員会	総務財政委員会	
陳情者	八幡東区大蔵三丁目2-1 公益財団法人 芳賀文化財団 理事長 芳賀 晟壽	
件名	本市のブランド力強化と認知度アップについて	
要旨	<p>平成27年の国勢調査速報値が発表され、本市は全国で最も人口が減少した都市であると報道された。本市は、市制50周年を経過した今も旧5市の感覚が根深く残っており、市を一つにする求心力が弱い。</p> <p>都市の活力の源泉は人の集積である。本市の観光都市化への方向は正しい。官営八幡製鐵所と北九州スタジアムは飛躍の起爆剤である。外国人観光客等の交流人口増加には、都市ブランド力の強化と認知度アップが必要不可欠である。</p> <p>観光やスポーツによる地域振興は、地方創生の重点課題に位置づけられている。外国人観光客等から寄せられた「皿倉山に帆柱ケーブルカーではわかりにくい」との意見をきっかけに、新日本三大夜景の皿倉山に皿倉山ケーブルカーがようやく誕生した。</p> <p>スペースワールドは全市民の誇りである。更に、JRの玄関口が市の名前と同じ北九州駅ならわかりやすく、ばらばらな本市に一体感が生まれ、パブリシティー効果も50億円に及ぶ。西小倉駅の名称を小倉駅に戻し、レトロ風に装えば、小倉城観光への効果も大きく、小倉が繁栄する。</p> <p>都市のにぎわいと発展には、都市のブランド力と認知度が大切である。観光等で稼ぐ都市力と、テーマパークや北九州駅等の都市資源の最大有効活用について検討していただきたい。</p>	